

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
「食育における歯科口腔保健の推進のための研究」
令和5年度 分担研究報告書

「食育における歯科口腔保健の推進」についての意見交換会の開催

研究分担者	梶浦靖二	島根県益田保健所	所長
研究分担者	安藤雄一	国立保健医療科学院生涯健康研究部	特任研究官
研究協力者	小栗智江子	愛知県保健医療局健康医務部健康対策課	課長補佐
研究協力者	長優子	東京都江戸川区中央健康サポートセンター	係長
研究協力者	吉森和宏	千葉県衛生研究所	主幹
研究協力者	田所大典	秋田県健康福祉部	技師
研究協力者	田村光平	東京都健康福祉局	課長
研究協力者	渡邊功	京都府立医科大地域保健医療疫学教室	助教
研究代表者	田野ルミ	国立保健医療科学院生涯健康研究部	首席主任研究官

研究要旨

【目的】

「食育における歯科口腔保健の推進」を図る一環として、市区町村へ助言する立場にある都道府県の歯科口腔保健担当者との意見交換会を企画した。

【方法】

本研究班で作成した「手引き」の活用を中心に、都道府県の歯科保健担当者を対象としたワークショップ形式の意見交換会を、対面形式とオンライン形式で行うこととし、11月21日に都道府県の歯科保健担当者宛に案内した。

【結果】

対面形式の意見交換会は1/4に東京にて、オンライン形式の意見交換会は2/20に開催し、対面とオンラインの特性を活かし、各地域における「食育における歯科口腔保健の推進」などについて意見を交換した。

【考察】

参加者は少なかつたものの、研究班の考えを伝えるとともに都道府県の歯科保健担当者の声を聴くという双方向のやりとりを踏み込んで行うことができ、有益な場であったと考えられる。

A. 目的

「食育における歯科口腔保健の推進」の現場は市区町村であるが、市区町村の自律的な動きに期待するだけでは限界があり、市区町村へ助言する立場にある都道府県の歯科口腔保健担当部局の動きが重要になると考えられる。

歯科口腔保健をすすめていくためには他部局との連携が重要である¹⁾ことは論を俟たず、食育はその典型と言える。連携を図っていくための必要条件として、人づくり・プラットフォームづくりは重要であり、本研究班もその一角を担う責務を有しているといえる。本研究班では今年度、自治体関係者に役立つ資料として「手引き」や「事例集」など、行政関係者に役立つ資料等の作成に力を注いできたので、これらの活用法を都道府県の歯科口腔保健担当者に示しつつ、今後の展開について協議する場を設けることが有用と考え、都道府県の歯科口腔保健担当者との意見交換会を企画し、対面とオンラインで各1回実施した。

本稿では、これらの経過と内容等について報告し、今後の展望について述べる。

B. 方法

研究班会議などの研究班メンバーによる会合やメール等のやり取りを経て、意見交換会について、下記内容の企画案を立てた。

- ・目的：「食育における歯科口腔保健の推進」を図るため、本研究班で作成した（当時は作成中）の「手引き」の活用を中心に、都道府県の歯科保健担当者を対象としたワークショップ（以下、WS）を開催し、各都道府県内および国レベルの施策展開を中心とした協議など、実践に向けた検討を行う。
- ・対象：都道府県（都道府県型保健所を含む）の歯科保健担当者#
 - # 本研究班メンバーにおける該当者は9名
 - ※ 職種は問わない
- ・内容：まず①対面形式のWSを行い、次いで②オンライン形式のWSを行う。

11月21日に都道府県の歯科保健担当者宛にメールで案内した。

C. 結果

1. 対面による意見交換会の開催（2024年1月4日）

日時：2024年1月4日（木）14:00～17:10

会場：オフィス東京 L2 会議室（東京都中央区京橋1-6-8）

参加者：行政関係者8名（うち2名が参加申込者、6名が研究班の行政職、この8名のうち7名が都道府県職）、ファシリテーター1名（梶浦）、講師2名（田野、安藤）

資料1は、当日の進行を示した参加者への配布資料である。

以下、資料1に記されている順に、意見交換会の内容を記す。

1 導入～チェックインタイム

- ・開会挨拶（田野・研究代表者）
- ・本日の趣旨説明（梶浦）

- ・参加者自己紹介：自治体の参加者より「私の地元の食の『推し』」を紹介
- 2 講（耕）義「食育における歯科口腔保健の推進について～厚生労働科学研究班報告」
 - ① 田野：「研究班の取組（全体）」と「事例集」について
 - ② 安藤：「手引き」と「提案」について
- 3 意見交換「講（耕）義からの学び」
 - "ピッチ"という意見交換の手法を用い、以下の流れで進行
 - ① 「もう少し聞きたい」内容を A4 用紙に記入
 - ② 各参加者がお互いの用紙の記載内容を見て、内容が似ている相手を見つけ、2グループを作る
 - ③ グループ内で用紙の記載内容について意見交換
 - ④ 意見交換の内容について各グループから発表
 - グループ 1：「提案」に書かれている内容を現場の食育関係者に、どのように伝えていけばよいかという内容を中心に話し合った
 - グループ 2：「手引き」に記されている「ヒト」に関する問題を中心に話し合い、丁寧な記述が求められること、歯科医師会に頼れない等の話が出た。

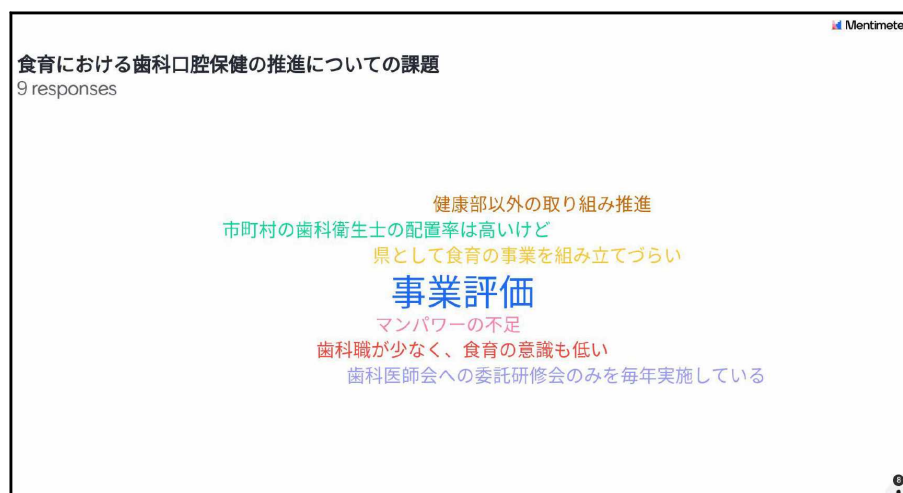
(休憩 5 分)

- 4 全体討議：食育における歯科口腔保健の推進」における地域の課題と推進する際の重要事項

mentimeter（アプリ不要でスマホから投票・コメント投稿ができるリアルタイムアンケートシステム）を使用。

(1) 食育における歯科口腔保健の推進についての課題

「食育における歯科口腔保健の推進」について参加者が捉えている地域の課題を mentimeter から入力すると、入力した文言が PC 画面に適当に配列されて表示され（下図）、梶浦ファシリテーターがこれらの中から文言を選び、それを記入した参加者が説明する、という流れで進行。



以下、mentimeter（上図）に示された「地域の課題」とその内容を記す。

・事業評価：

歯科保健は定量化可能で評価しやすいが、食育は定量化しづらく評価が

難しい。本県では高齢者に向けた食育研究を展開中で評価できるデザインとしている。

・健康部以外の取組の推進：

当都道府県では第一次食育推進計画の後の計画が策定されていない状況であったが、昨年度ようやく次の計画を策定できた状況。庁内の関係部署との連携の難しさを感じている。

・市町村の歯科衛生士の配置率は高いけど：

当都道府県は市町村における歯科衛生士の配置率が高いが、だからといって食育事業が進展しているという状況でもない。また、歯科衛生士が配置されていない市町村がある。歯科専門職の食育への理解不足とマンパワー不足の双方に悩んでいる。

・歯科職が少なく、食育の意識が低い

当都道府県では歯科衛生士が配置されている市町村は少なく、食育における歯科保健の取り組み状況も十分把握できていないし、自身も含めて食育の意識が高くない。

・マンパワー不足

当都道府県では市町村における歯科衛生士の配置率が低く、県がどう支援するかが課題。また、歯科医師数が減少して歯科保健事業が回らない地域も出始めているので、歯科専門職だけに頼らない内容を考える必要がある。

・県として食育の事業を立てづらい

事業実施主体が市町村なので県が行える事業は研修などが中心となる。

・歯科医師会への委託事業のみを毎年行っている

当都道府県庁では部局の縦割りが強く、食育事業を進めにくい状況。

(2) 推進する際の重要事項

(1)と同様、mentimeterを用い、推進する際に参加者が重要と考える事項を入力してもらい、梶浦ファシリテーターが指名して、それぞれの回答について説明してもらった。その内容は以下の通り。

・「多職種には自分の口を想像してもらう」

・「多職種の理解につながる取り組みやすさ」

・「歯科以外の職種が歯科の重要性を理解する」

補足：栄養担当が既存事業に歯科の内容を入れることが想定されるため、歯科以外の職種に歯科の重要性を理解してもらうことが必要と考える。

・「管理栄養士からの理解」

・「食育計画への歯科関連団体の参画」

補足：周囲・歯科以外の職種に歯科の重要性を理解してもらうことに繋げるイメージ。

・「周囲の必要性に対する理解」

・「概念・狙いを理解する」

補足：食育における口腔保健の概念を他職種に理解してもらわないと広まらない。

・「都道府県の姿勢を明確にする」

補足：市町村が取り組む意欲を高めるには、県はしっかりと推進していくという姿勢を、県が行う様々な会議や研修会で示す必要がある。市町村は県の方針をよく見ている。また、その前段階として多職種への理解や市町村への配慮といった調整が必要である。

(休憩)

5 厚生労働科学研究班「提案」についての話し合い（壁打ちタイム）

厚労科研班で作成している『「食育における歯科口腔保健の推進」を図っていくための提案』（以下「提案」、事前に全参加者に送付済み）についての期待や違和感、意見・要望などについて、ざっくばらんに話し合った。参加者を3グループに分け、「提案」の検討会（2023.12.12）に参加した3名（田野、小栗、安藤）が全グループを回って話を聴く、というかたち（壁打ちタイム）で進行した。

6 まとめ～チェックアウトタイム

(1) 厚生労働科学研究班「提案」についての話し合い結果報告

聴き役3名に寄せられた声は以下のとおりであった。

①小栗

- ・研究班 Web サイトは今後誰が管理するのか？
- ・ゴールが共有されていないと反応がまちまちになるのでは？
- ・「提案」を読んで拒否感が出ないようにする配慮が必要
- ・担当部局の横連携が重要
- ・モニタリングは、国・県・市町村で欲しい情報が異なるのでは？

②田野

- ・人材（歯科専門職）の配置を入れて欲しい
- ・モニタリングについて具体的な方法を示してほしい
- ・「ゆっくりよく噛んで…」と「何でもかめる」の違いを示す必要がある
- ・他職種の理解が進む工夫が必要
- ・（「手引き」の）ライフステージの区分は検討の余地がある
- ・食育推進会議のメンバーである歯科医からの提言や言及が必要
- ・研修会の動画を Web サイトにアップして欲しい

③安藤

- ・「提案」で書かれている内容は、各対象に対してどこまで進んでいるのか？
- ・本日の意見交換会は研究班の成果物のブラッシュアップを図ることが目的なのか？
- ・人材（歯科専門職）の配置を入れて欲しい
- ・新潟県では食育事業のモニタリングが行われていないので、歯科のほうで食に関連した事業をモニタリングする方法も考えられる

(2) 地元に戻ってからの食育における歯科口腔保健の取り組みの「第1歩」の発表

- ・本日の出張について復命する際、管理栄養士と情報共有して、本日のフィードバック

クを図っていききたい。

- ・当地域ではマンパワー的に厳しい面があるが何とかしたい。
- ・毎月、市町村と保健所に情報発信しているので、次回は本日の内容を伝えてフィードバックを図りたい。
- ・オーラルフレイルはかなり浸透しているが、歯科と食育もこのくらいいなければと思っている。職場内に研究班の成果物を噛み砕いて伝えていきたい。
- ・嚙カミング30が出たとき、千葉県でもかなり動いた。しかし、その後なぜか歯科では食育活動が下火になった。今回の研究活動をきっかけに継続して食育活動に取り組める方策を考えたい。
- ・都道府県の姿勢が重要であることを再認識した。まずは毎年実施している市町村調査において現状を把握してみることも検討したい。また連携協定を締結しているロッテ社との協働も考えてみたい。
- ・歯科医師会委託事業を見直したい。
- ・「手引き」、「提案」を保健所の栄養士に見せたい。県が行う保健所の歯科保健担当者会議や勤務する保健所の管内市町村会議でも取り扱いたい。

この後、6で出た内容のうち、「研修会の動画をWebサイトにアップして欲しい」の内容を教えて欲しいとの質問が出て、意見交換が行われた。その結果、都道府県が市区町村の歯科保健担当者に対して研修会を企画した場合、参加者に事前に目を通して欲しいと紹介できるような短めの動画があると使い勝手がよいので、作成を検討することになった。また、その動画で研究班メンバーが登場して「ひとこと」述べるような内容は如何かという提案もあり、併せて検討していくこととなった。

最後に梶浦ファシリテーターより締めくくりの言葉があり、閉会となった。

II. オンラインによる意見交換会の開催（2024年2月20日）

日時：2024年2月20日（火） 14:00～16:07

場所：Zoom（国立保健医療科学院・本館802号室より発信）

参加者：行政関係者4名、ファシリテーター1名（梶浦）、講師2名（田野、安藤）、サポーター3名（吉森、小栗、田所）、Zoom管理2名

資料2は、当日の進行を示した参加者への配布資料である。

以下、資料1に記されている内容のうち、4の意見交換以降の内容を記す。

4 意見交換（40分）

(1) テーマ1「食育事業に歯科口腔保健を上乘せするってどういうこと？」（20分）

指定されたブレイクアウトルームでグループの意見交換

まずは、サポーターから食育における歯科口腔保健の取り組みについて事例発表

その後、参加者から歯科口腔保健を上乘せしてみたい食育事業について発表

歯科口腔保健を上乘せするポイントについての話し合い

▽ルーム1の主な発言

- ・細分化して「上乘せ」するという考え方は連携が必要な事業などで応用できそうに思えた。多職種・他分野で意見交換するような機会に歯科のエッセンスを入れてもらえないかという感じで関与していきたい。
- ・食育についてはオーラルフレイル等、高齢期中心に関わっている。
- ・1歳半・3歳児健診以外に2歳児健診で歯科を重点的に取り組んでいる市町村が多いので食育にも取り組んでもらえるかもしれない。
- ・歯科は全ての年齢層に絡み、連携できる職種が広い。
- ・職場内の栄養士と情報共有して連携したらいい。

▽ルーム2の主な発言

- ・食育の取組が実施されていても、どのような取組があるか把握できていないことが課題。
- ・食育の事業に歯科保健事業の要素が含まれていても、見える化できていない。

(2) テーマ2「人に頼るってどういうこと？」(20分)

メインルームで全体で意見交換

まずは、サポーターからブレイクアウトルームでの意見交換の様子を報告

「人に頼る」「人に頼ってもらう」ための場面、工夫？

▽主な発言

- ・「手引き」に記されている「人に頼る」に関していうと、本日の参加者のうち歯科衛生士の方は「頼られる側」、保健師は「頼る側」と捉えられるので、そのような観点で発言していただきたい（ファシリテーター）。
- ・県として頼りやすい体制をつくるのが肝要と思う。
- ・得意分野を持ち寄るという考え方が必要では。
- ・県から市町村にアプローチした際、既に市町村側で行っていることがあり、そこにどう上乘せするかがポイント。
- ・顔と顔が見える関係をつくるのが肝要。
- ・頼られる側は、頼られるように日頃から心がける必要がある。
- ・「頼る」に至るまでには幾つかのステップがある。
- ・県として市町村の状況を知り得ていないことが多いように思える。

5 チェックアウトタイム(10分)

指定されたブレイクアウトルームでグループ討議：今日の意見交換の振り返り「今日の学び」

▽ルーム1

- ・「手引き」、「事例集」を活用していきたい。
- ・顔が見える関係が大事という点で学びがあった。
- ・県はしっかりと市町村を知ることが大事。県の歯科保健担当の手引きに市町村に対する現状把握や支援のツールのものが記されているが、市町村の困り度などについて会議の場に出たりしないと分からないこともある。
- ・市町のアンケート調査を例年行っているが、結果を返す際に市町に聞いてみることも必要と感じている。

▽ルーム2

- ・既存の食育の事業に乗っかる際は、特に管理栄養士など、他職種との理解のもとで丁寧に進めていくことが必要。
- ・歯科側からの発信ではなく、栄養側から発信してもらえるような理解を得ることが大切。

6 まとめ（10分）

（メインルームに戻り、各グループから振り返りの様子を発表していただく予定であったが、時間がなく、割愛）

講師から今日の感想を述べ、ファシリテーターから講評

講師

- ・手引き中に記した「上乘せ」や「人に頼る」が様々であることを認識したので、それらを踏まえて完成させ、食育における歯科をすすめる中心である都道府県の方が取り組んでいただけるように研究班としてサポートしていきたい。
- ・研究班として残された期間でしっかり取り組んでいきたい。

ファシリテーター

- ・人と人をつなげる腹黒さみたいなものが必要と感じており、本日の意見交換会でも、どのように参加者同士をつなげるかを色々と考えた。形式的にグループワークをこなすだけでは身につかないと思うので、この種のスキルのための必要であり、体験してほしい。
- ・ひとつの例として、「健康長寿しまね」の一環として会議ではないプラットフォームづくりをピッチという手法で人と人をつなげる方法を取り入れている。これは現在通っている島根大学の社会教育士取得のためのコースで学んだファシリテーション技術を実践のつなげたものである。
- ・多職種連携では「越境」的な体験が必要。
- ・保育所や学校との連携を求める声は強いが、現場は多忙で余裕がない。知恵出しが必要で、例えば保育園児のお散歩のときに地域の人が突然現れて話をするといった変態的なアイデアも必要である。

D. 考察

対面とオンラインによる2つの意見交換会を行い、参加者が少なかったものの、都道府県の歯科保健担当者と双方向のやり取りを行い、研究班の考えを伝えるとともに都道府県の歯科保健担当者の声を聴く意味で、有益な場であったと考えられる。

参加者が少なかった理由として、年度末で時期的に多忙であったこと、案内した11月21日の時点では内容が十分固まっておらず大まかな内容しか事前に伝えられなかったこと等の影響が考えられた。

対面による意見交換会では、申し込みによる参加が2名と少なかったが、研究班の行政歯科専門職6名が申し込みによる参加者と同じ立場で参加したので、実質的に参加者が8名であった。研究班での会合は、殆どがZoomによるオンライン形式であり、研究班の行政歯科職同士が対面でディスカッションした機会は少なかったため、その意味でも貴重な場であったといえる。また、の実質的参加者8名は全て歯科専門職であったこと

もあり、同じ専門職同士での本音トークに近いものができたという意味でも貴重な場であったと思われた。

一方、オンラインによる意見交換会では、歯科専門職以外の参加があり、意見交換のテーマ（「食育事業へ歯科口腔保健を上乗せするには？」と「人に頼るとは？」）がマッチしており、有益な意見を引き出せたと考えられる。

なお、対面による意見交換会で出た Web の動画に関する意見は、本研究班 Web サイトの「1分動画 | 研究班メンバーから動画で一言（各1分）」として実現した²⁾。

E. 文献

- 1) 厚生労働省. 歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の全部改正について(令和5年10月5日付け医政発1005第2号). <https://www.mhlw.go.jp/content/001154214.pdf>
- 2) 歯科食育サイト 研究班メンバーから一言.
https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/ohps/main/members_movie.html

F. 研究発表

I. 論文発表

なし

II. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

H. 謝辞

本調査に御協力いただきました全国の都道府県・市区町村および都道府県型保健所の職員の皆様に深甚なる感謝を申し上げます。

I. 巻末資料

資料 1. 対面による意見交換会の進行（参加者への当日配布資料）

1月4日厚生労働科学研究「食育における歯科口腔保健の推進について」意見交換会

ファシリテーター 島根県益田保健所 梶浦靖二

1 導入～チェックインタイム

- ・本日の趣旨説明
- ・参加者自己紹介「私の地元の食の『推し』」を紹介して下さい

2 講(耕)義

「食育における歯科口腔保健の推進について～厚生労働科学研究班報告」
国立保健医療科学院 田野先生・安藤先生

3 意見交換「講(耕)義からの学び」

“ピッチ”という意見交換の手法を用います

- ①各自一番強く感じた学びをA4用紙に書く
- ②各参加者がお互いの用紙の記載内容を見て、意見交換したい相手を見つけ3つ程度のグループを作ります
- ③グループ内で用紙の記載内容について意見交換します
- ④意見交換の内容についてグループから発表します
- ⑤全体でその他の学びを含め意見交換します

(休憩)

4 全体討議「プロローグとエピローグ」

(1)プロローグ「各地域における食育における歯科口腔保健の推進についての課題」

昨年度、研究班が行った自治体アンケート調査をもとに各参加者が課題を発表します

(2)エピローグ「歯科口腔保健のしあさって～明るい未来に向かって」

事前にお送りした「手引書案」をもとに、食育における歯科口腔保健を推進するにあたって何が重要かを各参加者から発表します

※全体討議では「mentimeter」というアプリ不要でスマホから投票・コメント投稿ができるリアルタイムアンケートシステムを用います。操作方法は当日説明します

※手引書案を事前に読んでおいていただくと充実した討議になると思います

(休憩)

5 厚生労働科学研究班「提案」についての話し合い(壁打ちタイム)

厚生労働科学研究班において、農林水産省・厚生労働省・自治体・日本歯科医師会・日本歯科衛生士会に対して「食育における歯科口腔保健の推進」についての「提案」に関する検討会が行われました。その検討会参加者との「提案」についての話し合いをします。期待や違和感、意見・要望なんでもごっくばらんに話し合いましょう。

- ①検討会参加者からの報告
- ②3グループにわかれての話し合い

6 まとめ～チェックアウトタイム

- ①厚生労働科学研究班「提案」についての話し合い結果報告していただきます
- ②参加者から今日の感想と地元へ帰ってからの食育における歯科口腔保健の取り組みの「第1歩」を発表していただきます

資料 2. オンラインによる意見交換会の進行 (参加者への当日配布資料)

- 1 ファシリテーターから講師、サポーター※紹介 (5分)
- 2 講義 (45分)
厚生労働科学研究「食育における歯科口腔保健の推進」について：
エビデンス・事例・手引
- 3 チェックインタイム～ホワイトボードで遊んでみよう (10分)
ホワイトボードを使った自己紹介 (所属、名前、ニックネーム)
ブレイクアウトルームのグループ分け
ZOOMの表示を「グループ番号 所属 名前 (ニックネーム)」に変更
- 4 意見交換 (40分)
 - (1) テーマ1 「食育事業に歯科口腔保健を上乗せするってどういうこと？」 (20分)
指定されたブレイクアウトルームでグループで意見交換
まずは、サポーターから食育における歯科口腔保健の取組みについて事例発表
その後、参加者から歯科口腔保健を上乗せしてみたい食育事業について発表
歯科口腔保健を上乗せするポイントについての話し合い
 - (2) テーマ2 「人に頼るってどういうこと？」 (20分)
メインルームで全体で意見交換
まずは、サポーターからブレイクアウトルームでの意見交換の様子を報告
「人に頼る」「人に頼ってもらおう」ための場面、工夫？
- 5 チェックアウトタイム (10分)
指定されたブレイクアウトルームでグループで今日の意見交換の振り返り「今日の学び」
- 6 まとめ (10分)
メインルームに戻り、各グループから振り返りの様子を発表
講師から今日の感想、ファシリテーターから講評